福岡市天神明治通り交差点に求められるデザイン的課題に関する考察

福岡大学工学部社会デザイン工学科　学生会員○山口拓巳，正会員 柴田久，池田隆太郎

1. はじめに

九州最大の繁華街「天神」は，今，100 年に一度といわれる，まちの大変革の渦中にあり，そのきっかけとなったのが，規制緩和等によってビルの建替えを後押しする再開発計画「天神ビッグバン」である [1]．現在天神ビッグバンの一環として「福ビル街区立替プロジェクト」が推進されており，これに付随して天神明治通り交差点（以下，明治通り交差点）の再整備事業（以下，本事業）も同時進行している．

本研究では，本事業に資する知見の収集を目的とし，1）関係主体の目指す明治通り交差点の将来像の整理，2）整備方針の確認および現地調査による現状の把握，3）対象地の都市形成に関する歴史調査から，明治通り交差点に求められるデザイン的課題について考察する．

2. 本事業の概要

対象地である明治通り交差点は福岡県福岡市中央区天神に位置し，東西に延びる明治通りと南北に延びる渡辺通りの交差部を指す．明治通り交差点は四隅にそれぞれ「福岡ダイヤモンドビル」「天神ビル」「福岡 PARCO」「福岡ビル（以下，福ビル）」を有している．本事業では福ビル街区立替プロジェクトと並行して，福ビルを有する一隅を再整備し，他の三隅は各隅の有する建物の建て替えに際して段階的に整備される予定となっている．本事業の統括および進行は，天神明治通り地区を対象エリアとして，街づくりを推進する官民連携の地権者組織である「天神明治通り街づくり協議会（以下，MDC）」が担っている [2]．

3. 明治通り交差点の将来像

天神地区ではまちづくりのエリアマネジメント団体として「We Love 天神協議会（以下，WLT）」が組織化されている．WLT は明治通り交差点を構成する二本の通りの将来イメージとして，明治通りを「福岡を代表する落ち着きと品格のビジネス通り」，渡辺通りを「天神の象徴となる活気ある大通り」と掲げている [1]．また明治通り交差点の改善案として「ランドマークポイントへの改変」や「街角の顔づくり」が提示されている [3]．

一方で MDC は「アジアで最も創造的なビジネス街」を天神明治通り地区の将来像として掲げており，その空間整備方針には「低層部の街の共有部と歩行者ネットワークの形成」を推進する旨が記載されている [1]．これに加え WLT と同様に，明治通り交差点をエリアの顔としてランドマーク的な場所に改変する案が記されている [4]．

4. 整備の方針・進捗状況および現地調査

2018 年に MDC がまとめた「グランドデザイン実現の手引書」では明治通りの舗装を新たに「半たわみ性舗装」に変更することとしており [5]，現段階では天神ビジネスセンター前のみ完了している．

現地調査の結果，渡辺通りおよび天神ビジネスセンター前を除いた明治通りは，赤系花崗岩を使用したブロックが馬目地に配置されており「暖色基調」となっていることが把握された（**写真-1**）．これに対し，すでに変更が完了している天神ビジネスセンター前の舗装は白系，グレー系，黒系に着色された三種類の半たわみ性舗装がランダムに配置され「寒色基調」のモザイク柄であることが看取された（**写真-2**）．

5. 天神の都市形成に関する歴史調査

益田も指摘しているように，1891 年頃の明治通りは当時の天神町（てんじんのちょう）という地区を通る狭い道であり，メインストリートは現在の昭和通り（旧唐津街道）であった [5]．当時から昭和通り側には西中島橋が架橋していたのに対し，明治通り側には現在の天神橋や西大橋は架橋されていなかった．その後，1910 年にこれらの橋が竣工したことで現在の明治通りが大橋通りとして拡幅・整備されている．また同年開催の「第 13 回九州沖縄八県連合共進会」に合わせて「福博電気軌道」が開通し，現在の明治通りの骨格が完成する [6]．さらにその翌年 1911 年には「渡辺通り」

写真-1　渡辺通り

写真-2　明治通り

に名を残す渡辺與八郎が「博多電気軌道」を開通させ，これを機に福博電気軌道の「高等女学校前電停」が「天神町電停」として移設，現在の明治通り交差点が誕生した（**図-1**）[5]．これらの史実から「明治通り交差点の誕生」と「軌道の敷設」が密接な関係にあることがうかがえる．

さらに 1914 年に松永安左エ門は「筑紫電気軌道（現在の西鉄天神大牟田線）」で春吉～東久留米間を結ぶ特許を取得すると，明治通り交差点の可能性に着目し，1917 年に親会社の九州電灯本社を東中洲から天神町へ移設，起点も交差点付近に変更している．また 1924 年には交差点付近に「九鉄マーケット」が開設し，交差点を中心に明治通りへの商業集積が開始されている．さらに 1936 年には「岩田屋」が登場し，先に開店していた松屋百貨店とともに天神地区商業地化が進み，天神交差点を起点として渡辺通りに商店が立ち並んでいく[5]．これらの史実から「明治通り交差点」が「天神の発展」において重要な位置づけにあったことが示唆される．

6. 明治通り交差点に求められるデザイン的課題

現地調査の結果，整備後の明治通り交差点は「暖色」と「寒色」相反する舗装パターンの交差部となることが推察され，これらの差異がもたらす「景観的な一体感の欠如」は懸念点の一つとして挙げられるだろう．先述の通り，かつて「軌道」という一続きの構造物によって形成された両通りの歴史を踏まえると，その交差部である明治通り交差点においては，双方に対する「連続性」を担保することが重要であると言える．

図-1　1911 年福岡市全図の一部に筆者加筆
（益田啓一郎編，天神明治通りの景観変遷[3] より）

また WLT は明治通り交差点を構成する両通りの将来イメージについて「福岡を代表する」や「天神の象徴となる」といった表現を用いていることから，これらの交差部にあたる明治通り交差点の重要性が読み取れる．一方で MDC は天神明治通り地区の空間整備方針として「街の共有部の形成」を明記しており，明治通りを単に通過するための通りと認識していないことが看取された．また改善案について両者は「明治通り交差点のランドマーク化」という共通の目標を掲げており，明治通り交差点を天神の顔として位置づけているものと推察される．さらに歴史調査の結果，二つの軌道の誕生によって交差点への電停移設がなされ，これを契機に天神の商業地化が進んでいった経緯など，明治通り交差点が天神の都市形成史上重要な場所であったことが把握されている．すなわち，明治通り交差点は天神の発展史を語るうえで欠かせない核心的な場所であり，本事業におけるシンボリックかつ中心性のある空間としてデザイン提案される重要性が指摘できる．

短期的に大規模な再開発が推進される天神ビッグバンによって，明治通りは急激に現代的かつ都会的な姿へと変貌を遂げる可能性が高い．本研究で示した「過去」「現在」「未来」三つの観点を踏まえた空間デザインの提案は天神らしさを継承するうえでも重要と考えられ，ひいては全国に広がる画一的な都市整備に陥らないための鍵となるだろう．

【参考文献】

1) We Love 天神協会ホームページ　https://welovetenjin.com　2022，12 月閲覧
2) 天神明治通り街づくり協議会ホームページ　http://www.tenjin-mdc.org　2022，12 月閲覧
3) We Love 天神協会：平成 23 年度サスティナブル都市開発促進モデル事業（福岡天神における都市環境改善事業報告書），pp.83-106，2012
4) 天神明治通り街づくり協議会：天神明治通り地区地域まちづくり計画，p9，2014
5) 天神明治通り街づくり協議会：グランドデザイン実現の手引書，p72，2018
6) 益田啓一郎：天神明治通りの景観変遷　現在該当ページなし　2022，9 月閲覧
7) 福岡市土木局：福岡市土木史-福岡市の道路の歩み-，p67，1966